

地区の住民みんなで取り組むみどり戦略

～竹のチップ化による肥料・燃料利用～

【放置竹林の伐採】

大分県豊後大野市の長谷（ながたに）地区は、過疎・高齢化により、地区の里山に多く生えている竹の管理に手が回らない状況でした。

そこで、地区内8自治区で「ながたに振興協議会」を構成し、各自治区の住民の皆さんにより放置林の竹の伐採を行っています。

伐採により、農地や住宅地周辺への竹の侵入や、イノシシのすみかとなる竹藪が減ったため、住民に喜ばれています。



〔竹を伐採、その場でチップ化〕

【伐採した竹の堆肥利用】

伐採された竹は、伐採現場で移動式の竹チップ製造機により、すぐにチップ状にされます。

チップは軽トラックで地区内の堆肥製造場所へ運ばれ、地区内で出た鶏ふんと混合され、完熟堆肥がつくられます。

完熟堆肥は、地区内の米や野菜の生産農家で使われ、土づくり効果が上がり、「野菜が大きくなった」、「米が美味しくなった」といった評価の声が出ています。



〔鶏ふん混合の完熟堆肥〕

【伐採した竹の燃料利用】

乾燥を加えたチップが、同市内のサイクリングハブ施設の「足湯」用ボイラーの燃料として使われています。

「足湯」では、利用者に対して「化石燃料を使わない100%竹チップ燃料のボイラー」とPRされています。

このようにして、年間約50トンほどの竹チップが、堆肥や燃料として利用されています。



〔豊後大野市内のサイクリングハブ施設とボイラー〕

【竹のさらなる有効利用】

さらに、協議会の皆さんの知恵で竹パウダーの製造機をつくりました。

この竹パウダーと米ぬかを混合し、発酵熱を利用した「酵素風呂」を、地区内の廃幼稚園舎で運営しており、市外から利用に来るお客さんなどからも好評です。

竹パウダーは、消臭剤やぬか床としても販売されています。また、今後に向けて、竹を炭化して農地の土壌改良に使っていくなど、竹のさらなる有効利用方法を検討しています。



〔好評の酵素風呂〕